

- 1) 鈴木商店について
- 2) 鈴木商店記念館について
- 3) 「米価問題と鈴木商店」の記載内容と  
官公庁資料との照合

**(株)双日総合研究所**

**前田 勝**

※ 本報告で示される見解は、個人的見解であり、報告者が所属する機関を代表するものではありません

# 鈴木商店について (1)ドラマチックな会社

## ①創業から44年で売上日本一の商社に

明治7年(1874)、鈴木岩治郎が神戸市に砂糖商を開業。明治27年(1894)、金子直吉は経営を託され、その指揮のもと急速に発展、23年後の大正6年(1917)の売上高は※15億4,000万円を記録

(※「総合商社の源流 鈴木商店」 桂芳男 昭和52(1977))

## ②日本の製造業をリードする数多くの会社を設立

食品、繊維、化学、鉄鋼、造船などの分野で※49の事業会社を設立し、日本の製造業の発展に多大なる功績を残した。(例: 神戸製鋼所、帝人、IHI、昭和シェル石油、ダイセル、サッポロビール、日本製粉、J-オイルミルズ、他)

(※「総合商社の源流 鈴木商店」 桂芳男 昭和52年(1977)、P6、典拠Bより)

## ③大正7年(1918) 米騒動による本店焼き打ち

暴動により、神戸市東川崎町本社が全焼。誤解・曲解に基づく風説によるもの。怨嗟の的になった原因は1) 大戦景気に浴さない一般大衆の「成金」への嫉妬、2) 大戦時の買出動(大正3年)で儲けた鈴木商店は当然米も買占めているはずという憶測、3) 「大阪朝日新聞」が誹謗中傷記事を掲載し続け、反鈴木の世論をリードしたこと、4) 逆宣伝の欠如

(「総合商社の源流 鈴木商店」 桂芳男 昭和52(1977))他 より要約)

## ④昭和2年(1927)に倒産 - 日本一からわずか10年 -

大戦後の反動不況、大正10年(1921)の軍縮会議による失注、大正12年(1923)関東大震災による損失、株式会社化の遅れ(大正12年(1923)には鈴木合名会社と(株)鈴木に)、金子ワンマン体制、借入(昭和2年4.5億円)の8割を担っていた台湾銀行の変節

(「鈴木商店と台湾開発」 齋藤尚文 平成22年(2010)より要約)

## ①「鼠 鈴木商店焼打ち事件」

城山三郎著 文藝春秋(1966)／文春文庫(1975／新装版2011)

大正7年、米騒動によって神戸の本店を焼き打ちされた鈴木商店。「米価急騰は鈴木商店による米の買い占めが原因」との通説に疑問を抱いた「私」が丹念な取材を通して、その真相を糾明していくノンフィクション・ノベル。城山文学の最高傑作。



## ②お家さん(上・下)

玉岡かおる著 新潮社(2007)／新潮文庫(2010)

働く者たちの拠り所たる「家」を構えた商家の女主人を意味する言葉、「お家さん」。本書は「お家さん」と呼び慕われながら、鈴木商店を日本一の年商を誇る巨大商社へと導いた鈴木よねの生涯を描いた感動の大河小説。2014年にはドラマ化。

## 経営史、財政・金融史、産業史、社史、小説、様々な分野で先行研究がある

(「鈴木商店」にて検索した場合、.CiNii(サイニー・情報学研究所) 46件、グーグルスカラー 446件、国会図書館 557件 (2017年1月時点))

- 日商四十年の歩み (昭和43年発行)
- 金子直吉伝・復刻版 (人物で読む日本経済史 第八巻 白石友治編 ゆまに書房)
- 松方・金子物語 (藤本光城著 兵庫新聞社)
- 幻の総合商社 鈴木商店 (桂 芳男著 現代教養文庫)
- 鈴木商店と金子直吉の人間像 (株) 神戸製鋼所創立79周年記念講演 (桂 芳男 別冊神鋼タイムス)
- 野生のひとびと (城山三郎著 文春文庫)
- 海鳴りやまず 第二部 神戸近代史の主役たち (神戸新聞社編)
- 成金炎上 昭和恐慌は警告する (山岡淳一郎 日経BP社)
- 真珠湾攻撃を決断させた男 第三章 金子直吉と新宿中村屋 (荻野正哉著 K&Kプレス)
- 経済野話 (金子直吉著 巖松堂書店 大正13年発行)
- 史上最大の仕事師 鈴木商店の大番頭・金子直吉のすべて (澤野恵之著 PHP研究所)
- 昭和金融恐慌秘話 (大阪朝日新聞経済部編)
- 日本創業者列伝 (加来耕三著 学陽書房)
- 評伝・金子直吉 行け! まっしぐらじゃ (辻本嘉明著 郁朋社)
- その時歴史が動いた⑩ (NHK取材班・編 KTC中央出版)
- 関西系総合商社の原像 (桂 芳男著 啓文社)
- 総合商社の経営史 (宮本又次・梶井義雄・三島康雄編 東洋経済新報社)
- 昭和政治経済史への証言<上> (安藤良雄・編著 毎日新聞社)

## 金子直吉 商社の源流「鈴木商店」を育てた巨人 小宮由次著 (2012)

日商岩井(現・双日)OBで「鈴木商店記念館」編集副委員長でもある著者が自身のライフワークとする「鈴木商店研究」の成果をまとめたもの。天才実業家金子直吉が興し育て、そして今日へと連なる企業系譜の全貌が明らかにされている



昭和3年(1928)

高畑誠一・永井幸太郎が中心となり、旧鈴木商店の社員39名で「日商(株)」を設立

(昭和28年に大証一部上場、昭和43年に日商岩井、平成16年双日へ)



昭和35年(1960)

高畑誠一氏を会長として「鈴木商店」を懐旧する会、「辰巳会」が創立

- 主な辰巳会活動 -

昭和39年 金子直吉没後20年祭 神戸オリエンタルホテル

昭和39年 鈴木よね刀自25回忌法要 神戸オリエンタルホテル

昭和39年 会誌「たつみ」創刊

昭和41年 京都嵯峨天竜寺にて全国大会

作家城山三郎を招く(“鼠”出版)

昭和42年 祥龍寺にて全国大会 物故者の供養塔建立を決定

昭和43年 祥龍寺に辰巳会供養塔を建立し、物故社員を合祀した

昭和44年 全国大会を祥龍寺・六甲山にて開催 西川文蔵50回忌法要

昭和45年 創立10周年を記念し、奈良・依水園にてよね刀自33回忌法要

昭和47年 金子直吉遺芳集発行

昭和50年 西川文蔵支配人命日に頌徳碑建立 辰巳会創立15周年

昭和52年 京都国際会館にて全国大会 鈴木商店回顧50周年記念

昭和53年(1978)

**鈴木治雄氏(太陽鋳工名誉会長)、第2代辰巳会会長に就任**

(関西学院大学法文学部OB、(昭和16年(1941)卒)

- 主な辰巳会活動 -

- 昭和55年 祥龍寺にて全国大会 辰巳会創立20周年
- 昭和56年 大阪梅田コマ劇場にて「海鳴りやまず」公演
- 平成元年 神戸・須磨寺にて全国大会 辰巳会創立30周年
- 平成 5年 金子直吉没後50年祭(神戸・長田神社)
- 平成12年 祥龍寺にて全国大会 辰巳会創立40周年
- 平成19年 よね刀自70年祭 神戸・生田神社会館
- 平成22年 辰巳会創立50周年
- 平成25年 金子直吉没70周年記念式典



創立57年が経過、創立時の方々はほとんどが他界され、会員数が減少



平成26(2014)年4月

**関連企業34社、辰巳会会員、OB、有志の賛同と協力により、鈴木商店の関連資料を電子化・体系化し、保存する目的で、バーチャル記念館である「鈴木商店記念館」を設立**

<http://www.suzukishoten-museum.com/>

 株式会社神戸製鋼所 「国がやるべきことを鈴木がやる」	 帝人株式会社 国産技術による日本初の人絹の生産に成功	 双日株式会社 鈴木商店を源流とする総合商社	 太陽鋳工株式会社 先進的マテリアルに鈴木商店の創業精神を引継ぐ
 株式会社IHI 相生と共に歩んだ播磨造船の伝統を引継ぐ総合重機メーカー	 株式会社JMUアムテック 鈴木商店の造船部門を受け継ぐJMUアムテック	 日本製粉株式会社 わが国で初めてロール式製粉機を導入した総合食品企業	 株式会社ダイセル 世界初のプラスチック・セルロイドを国産化
 昭和シェル石油株式会社 いち早く外国原油輸入・精製に取り組み	 日本興業株式会社 鈴木商店・鉄材部の高知市産トリアにより起業した「ニッパツ」	 株式会社J-オイルミルズ 大豆油のシェア7割。鈴木商店が最大規模の工場を設立	 鈴木薄荷株式会社 「鈴木」の名を唯一受け継ぐ鈴木薄荷
 東邦金属株式会社 日本初の電球用フィラメントを製造	 株式会社ニチリン 鈴木商店のゴム部門から発展した自動車部品のトップメーカー	 日塩株式会社 海水を木桶と潮風が育んだ「天日塩」を今も守り続ける	 株式会社大本組 米騒動の際、鈴木よねを救った大本組
 日油株式会社 金子直吉の先見性がわが国の油陸工業をけん引	 日本畜産製品株式会社 鈴木商店の灌漑事業に由来し、標榜精造一筋に86年	 ニッカウヰスキー株式会社 大連酒造製造所からニッカウヰスキー部門工場へ100周年	 株式会社 江戸金 鈴木岩治郎とともに菓子職人を目標とした金次郎が創業した「江戸金」
 池田興業株式会社 鈴木商店の港湾荷役を起源とする総合物流企業	 株式会社 後藤回運店 金子直吉と後藤新平の構想を基にした後藤回運が創業	 共栄株式会社 鈴木商店ニューヨーク駐在員が起業した製紙原料商社	 日南洋行エンタープライズ株式会社 鈴木商店OBが創業した「バンコク拠点の農木宇製紙原料商社」
 滋谷油脂株式会社 「益焚き石盆」を守り続ける。鈴木出身者創業の石盆メーカー	 株式会社亀井堂本店 「瓦せんべい」で愛され続ける鈴木商店創業時の大得意先	 シンフォニアテクノロジー株式会社 鳥羽造船所の電機事業を起源とする	 日商プロパン石油株式会社 羽幌炭鉱をルーツに北海道全域でエネルギー事業を展開
 日工株式会社 鈴木商店工部部を母体とするアスパルトメント最大手			

## 編集委員会

- 金野和夫 編集委員長・辰巳会事務局・太陽鋳工顧問
- 小宮由次 編集副委員長・元日商岩井・「金子直吉」著者・鈴木商店研究会事務局
- 金子直三 編集委員・金子直吉実弟・楠馬の曾孫
- 安井裕二郎 編集委員・〈画像提供〉・(社) ジャパンアーカイブズ理事長
- 西森文明 編集委員・〈高知地域担当〉・高知県庁
- 市川善和 編集委員・双日総合研究所経営管理部長
- 大塚融 監修・元NHK記者・数寄者研究家
- 鍋島高明 監修・元日経記者・「大番頭金子直吉」著者・市場経済研究所会長

<http://www.suzukishoten-museum.com/>

来訪者数: のべ60.5万人(2016年12月19日現在)



サイト内検索

編集委員会ブログ

- ※ は「辰」をご紹介します。 2016.12.14.
- ※ 神戸新製の連続「高かき海路 巨大商社・鈴木商店が築いたもの」の第27回をご紹介します。 2016.12.12.
- ※ 10月11日(火)～来年1月31日(日)の続、大慶企業家ミュージアムにて特別展示「明治・大正・昭和、隆盛の時代を駆け抜けた女性企業家 ～鈴木よねと広商(後子)～」が開催されています。 2016.12.8.
- ※ 神戸新製の連続「高かき海路 巨大商社・鈴木商店が築いたもの」の第26回をご紹介します。 2016.12.5.
- ※ 岡崎区誌・産物区の「北沢中学校」を掲載しました。 2016.11.30.
- ※ 自然誌研の機関誌「トイロカルチャー」に金子直吉が紹介されました。 2016.11.22.

鈴木商店のあゆみ



ご協力企業



鈴木商店とは

鈴木商店のあゆみ

鈴木商店写真館

当記念館について

財界の  
ナポレオン  
金子直吉とは?

鈴木商店とは・トップページ

- ▶ 鈴木商店とは 大正期に日本一の年商を誇った“幻の総合商社”
- ▶ 鈴木商店年表
- ▶ 鈴木商店関連出版物 鈴木商店の歴史に関連する書籍等をご紹介します。

鈴木商店のあゆみ・トップページ

- ▶ 鈴木商店の歴史
- ▶ 地域特集
- ▶ 人物特集
- ▶ 企業特集

鈴木商店写真館・トップページ

- ▶ 鈴木商店写真館
- ▶ 写真を検索する

鈴木商店記念館について・トップページ

- ▶ ごあいさつ
- ▶ ご協力企業
- ▶ お問い合わせ
- ▶ 運営体制
- ▶ 本記念館のご利用について

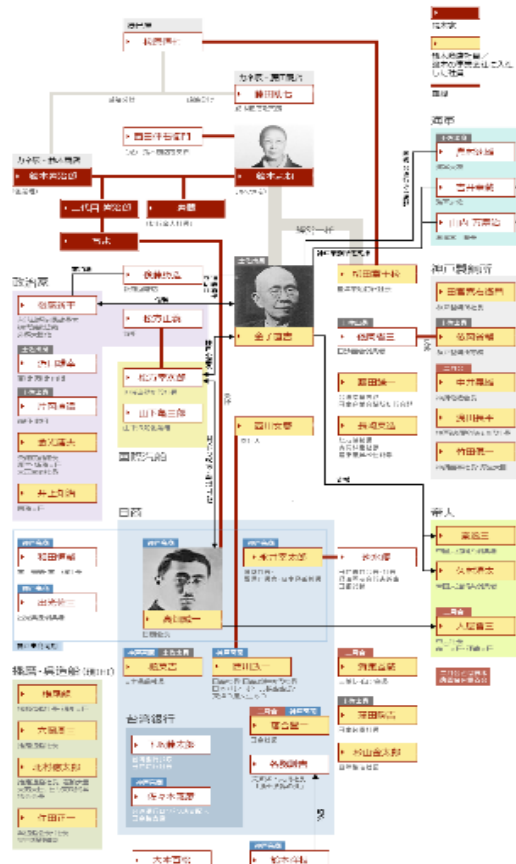




<http://www.suzukishoten-museum.com/>

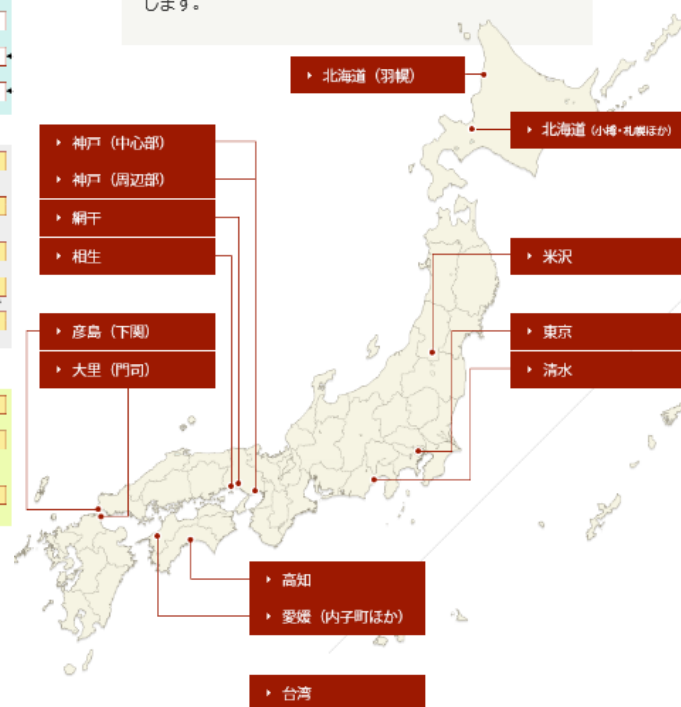
## 人物特集

※【人物名】をクリックすると詳細な説明をご覧いただけます。



## 地域特集

神戸、相生、門司、高知、内子町、米沢、北海道など全国各地をはじめ、遠く台湾、ロンドンにまでその足跡を今に残す鈴木商店ゆかりの地。地元の方々により保存活動が行われているそれらの街を、観光ガイド風にご紹介します。



## 企業特集

事業分野別	鈴木商店が設立/買収した会社	鈴木商店と関係の深い会社
	年代別	関係の深い会社
事業分野	鈴木商店が設立/買収した会社	現在につながる会社
貿易	日本商業 (明治42年設立)	双日株式会社
糖業	直営糖屋製造所 (明治33年設立)	日本精化株式会社
	日本糖屋 (大正7年設立)	日本精化株式会社
	再製糖屋 (大正8年設立)	日本テルベン化学株式会社 日本香料薬品株式会社
	支那糖屋 (大正9年設立)	-
帝國糖屋 (大正11年設立)	太陽林産	
薄荷	鈴木薄荷 (直営薄荷製造所) (明治35年設立)	鈴木薄荷株式会社
製糖	大里製糖所 (明治36年設立)	関門製糖株式会社
	塩水港製糖 (明治40年設立)	塩水港製糖株式会社 三井製糖株式会社
	北港製糖 (明治43年設立)	大日本明治製糖株式会社
	斗六製糖 (大正元年設立)	大日本明治製糖株式会社
	東洋製糖 (大正3年買収)	大日本明治製糖株式会社
	南洋製糖 (大正4年買収)	-
製粉	東亜製粉 (明治39年買収)	日本製粉株式会社
	札幌製粉 (明治42年買収)	日本製粉株式会社
	大里製粉所 (明治44年設立)	日本製粉株式会社
	日本製粉 (大正14年系列化)	日本製粉株式会社
	日本製粉 (大正14年系列化)	日本製粉株式会社

<http://www.suzukishoten-museum.com/>

## シンポジウムの開催



## 取材協力(神戸新聞特集「遥かな海路」)



## 催事協力( 地方自治体、商工会議所等の記念展示・式典向けの情報・写真提供 )



New way, New value



150th Anniversary  
  
 PORT OF KOBE

海を越えて、時を越えて、  
 神戸で出会う。



# 神戸 みなと 時空

神戸港と神戸文化の企画展

期間 / 2017. 1.25 [水] ~ 12.28 [木]

会場 / KIITO (デザイン・クリエイティブセンター神戸)

開館時間 / 10:00-17:00 休館日 / 月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日)

主催 / 神戸市

協力 / 日本玩具博物館、陳舜臣アジア文藝館、辰巳会 鈴木商店記念館

(フランスの帆船) 1970年代 / TOY & DOLL COLLECTION 「世界の船の玩具」より



# 3 日本一の総合商社へ 鈴木商店記念館

開港当初の神戸で創業し、今なお語り継がれる伝説的総合商社の軌跡



金子重吉

鈴木よね

＊神戸港と神戸文化の企画展－神戸 みなと 時空－＊

「鈴木商店記念館」第1回講演会のご案内

## 【神戸・台湾と鈴木商店】

神戸に誕生した鈴木商店は、台湾進出を契機に巨大な資本蓄積・事業拡張を遂げ、世界的貿易商社、一大企業集団に成長した。台湾での事業は樟腦・樟腦油の獲得にはじまり、精製業・再製業・セルロイド工業といった内地樟腦関連業への投資を併いながら、専売場の販売請負や製糖業を加えて多角化し、さらに重工業分野にも足跡を残した。台湾総督府民政長官・後藤新平とのつながりで築かれた政財界における幅広い人脈や台湾銀行との取引は鈴木商店の金事業の基礎となった。鈴木商店の歩みの要所要所に登場する「台湾」をキーワードに考察を進める。

- 日時…平成29年2月25日(土) 14:00～15:00
- 場所…KIITO(デザイン・クリエイティブセンター神戸)301室。
- 定員…先着80名 ※「神戸港と神戸文化の企画展－神戸 みなと 時空－」の入館券をお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。

●講師…齋藤 尚文氏



兵庫県立芦屋高等学校教諭・兵庫教育大学大学院非常勤講師、博士(学術)、台湾史研究会会員、NPO 法人神戸外国人居留地研究会会員、鈴木商店記念館運営協力者、台湾と鈴木商店に関する研究論文多数。

○「鈴木商店の台湾進出と製糖事業の展開について」

○「台湾における鈴木商店の製糖事業について－人的資本的関わりを中心に」

○「鈴木商店と台湾植民地制度」

○「鈴木商店の台湾進出－進出時期と「樟腦先物取引奨励」の再検討」

○「鈴木商店の海運事業－南洋汽船株式会社を中心に」

○「金子直吉「天下三分の草書書」はいつ書かれたか」

○「鈴木商店と台湾鉄工所－製糖機械の現地生産化をめぐって」ほか。

2月25(土)	齋藤博士(芦屋高校教諭)	「神戸・台湾と鈴木商店」
4月8(土)	高畑常務(鈴木薄荷)	「高畑誠一と松方幸次郎」
5月20(土)	小林経済部長(神戸新聞)	「鈴木商店の軌跡に学ぶ～現代へのメッセージ」
7月8(土)	小林理事長(須磨歴史倶楽部)	「お家さんと須磨の邸宅群」
9月9(土)	神木名誉教授(神戸大学)	「居留地貿易と鈴木商店」
11月11(土)	大塚融氏(元NHK記者)	「金子直吉と神戸高商出身者」

## ＊神戸港と神戸文化の企画展－神戸 みなと 時空－

- 期間…2017年1月25日(水)～12月28日(木)
- 会場…KIITO(デザイン・クリエイティブセンター神戸) ○開館時間…10:00～17:00
- 休館日…月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日)
- 入館料…一般(高校生以上)=500円・中学・小学生=200円
- 主催…神戸市
- 協力…日本玩具博物館、陳舜臣アジア文藝館、辰巳会 鈴木商店記念館

# 「米価問題と鈴木商店」の記載内容と 官公庁資料との照合

# 「米価問題と鈴木商店」の概要

編者	鈴木商店米部
執筆	永井幸太郎氏
発行年	大正8年(1919) (記載日は大正7年12月付)
内容	<u>焼打ち事件の4か月後、「米買占めの鈴木」は全くの誤解であり、いかに鈴木商店が政府の米価調整策に貢献したかを説明したもの</u>
構成	全 43 ページ( 緒言、第1章 日本米輸出の顛末、第2章 外米取扱の顛末、第3章 朝鮮米取扱始末 )
文体	縦書き、旧字体、カナ混じり文
過去の紹介例	「日商四十年の歩み」 資料編 p707~p724 (日商株式会社、昭和43年(1968))
今回使用した原本	大阪市立大学 蔵書の複写版を使用 (公共図書館では神戸大学蔵書分の2冊のみ)

P611.43  
S 32  
/

Ap-5176

最近數年米價ハ異常ノ低落ヨリ異常ノ騰貴ニ急轉シ爲ニ此ノ農民ノ生存ヲ脅威シ後ニハ國民一般ノ食料問題ヲ沸騰セシメ政府及ビ憂國ノ士ヲシテ毎ニ之ガ調節ニ苦心セシメタリ此ノ時ニ當リ平糶米穀需給ノ業ニ從ヘル者國家社會ノ爲ニ自己ノ利益ヲ犠牲トシテモ進ンデ最善ノ努力ヲ爲シ調節ノ目的ニ達スル所ヲ務メタリ

出シ内地産米不足シテ價格異常ノ騰貴ヲ爲セル際ニハ海外ニ輸ラ其ノ功ヲ誇ルベキニアラズ蓄シ鈴木商店ノ爲セル所ハ政府

ラ餘リテ價格異常ノ低落ヲ來セシ際ニハ進ンデ之ヲ海外ニ輸出シ内地産米不足シテ價格異常ノ騰貴ヲ爲セル際ニハ海外ニ輸スルニ努メタリ是誠ニ以テ國家ノ急要ヲ充タシ國民ノ困窮ヲ軽減シ其ノ功ヲ誇ルベキニアラズ蓄シ鈴木商店ノ爲セル所ハ政府

緒言

大阪市立大学  
資料室  
12.1

# 過去の研究と「米価問題と鈴木商店」の扱い 及びその理由

鈴木に対する評価	「米価問題と鈴木商店」 の扱い	左記の理由
昭和34年（1959） 「米騒動の研究」 井上清 他	参考文献として記載 あるが内容は無視 (※ 次ページ参照)	誤報の存在は容認できない中、 「米価問題」が誤報の存在を説明し ている(推測) (※ 追加資料参照)
昭和41年（1966） 「鼠」 城山三郎	参考文献として記載 事実として採用	1)大阪朝日新聞の誤報、中傷記 事の存在が確認できる  2)当時の関係者の取材および書 簡より背景を確認できる  3)金子直吉の担当部署への通達 など、真摯さが伺える
昭和53年（1978） 「総合商社の源流 鈴木商店」 桂芳男	参考文献として記載 事実として採用	不明 (自己弁護書だから?)
平成26年（2004） 「図説米騒動と民主 主義の発展」 井本三夫 他	参考文献としての 記載なし	



# 引用はするが内容は無視した例

昭和34年（1959）  
「米騒動の研究」  
井上清 他

（第3巻p19 中略）そしてその事業の一部に米仲買があったのであるが、すでに大隈内閣の米価釣り上げ政策の一端として行った買上げ米（第一巻、四頁以下参照）の払下げを受け、さらに自ら買集めたものを合わせて①七一万俵を国外に輸出している（鈴木商店「米価問題と鈴木商店」）。この輸出でも同商店は「満足すべき成績」をおさめたが、そのさい、集積した米すべてを輸出したのではなく、かえって②買占めを続行しているのではないかと疑われ、鈴木が米を買占めて値を釣り上げているという噂は世上に喧しかった（「新史流」、p44）。事実すでに第四〇議会で（18年2月29日）、③憲政会の横山勝太郎により、鈴木商店は5千万円の資本を投じて精粉類と小麦の買占をやっていると暴露されているのである。その上、④外米管理令による指定商人として、外米・朝鮮米を取扱って莫大な利益をあげていた。このため、鈴木商店は市民の怨嗟の的となっていた。

昭和41年（1966）  
「鼠」  
城山三郎

（新装版p14~34より抜粋）

①鈴木商店は前年の大正6年7月以降一切輸出はしていない点を「米価問題と鈴木商店」で強調しているにもかかわらず無視している。  
→ 事実誤認

②噂の部分は別論文の「新史流」を引用しているが、証言者を再度取材し、証言内容が正確に記載されていないこと、都合よく解釈されていることを明らかにした（「鼠」の真骨頂部分）。

③明らかに米と小麦のすり替えがある。  
（前年、英国政府から小麦10万トンを受注をした際、受注の事実を知らない会社が相場での空売りにより、大損失を出した事実はある）

④「米価問題と鈴木商店」で口銭は政府との取り決められている点も強調しているが、無視している。 → 事実誤認・拡大解釈

## 今回の調査報告の背景

著名な先行研究では、「米価問題と鈴木商店」の扱いははっきり二分している。即ち、事実として全面的に採用するか、無視するか、のどちらか

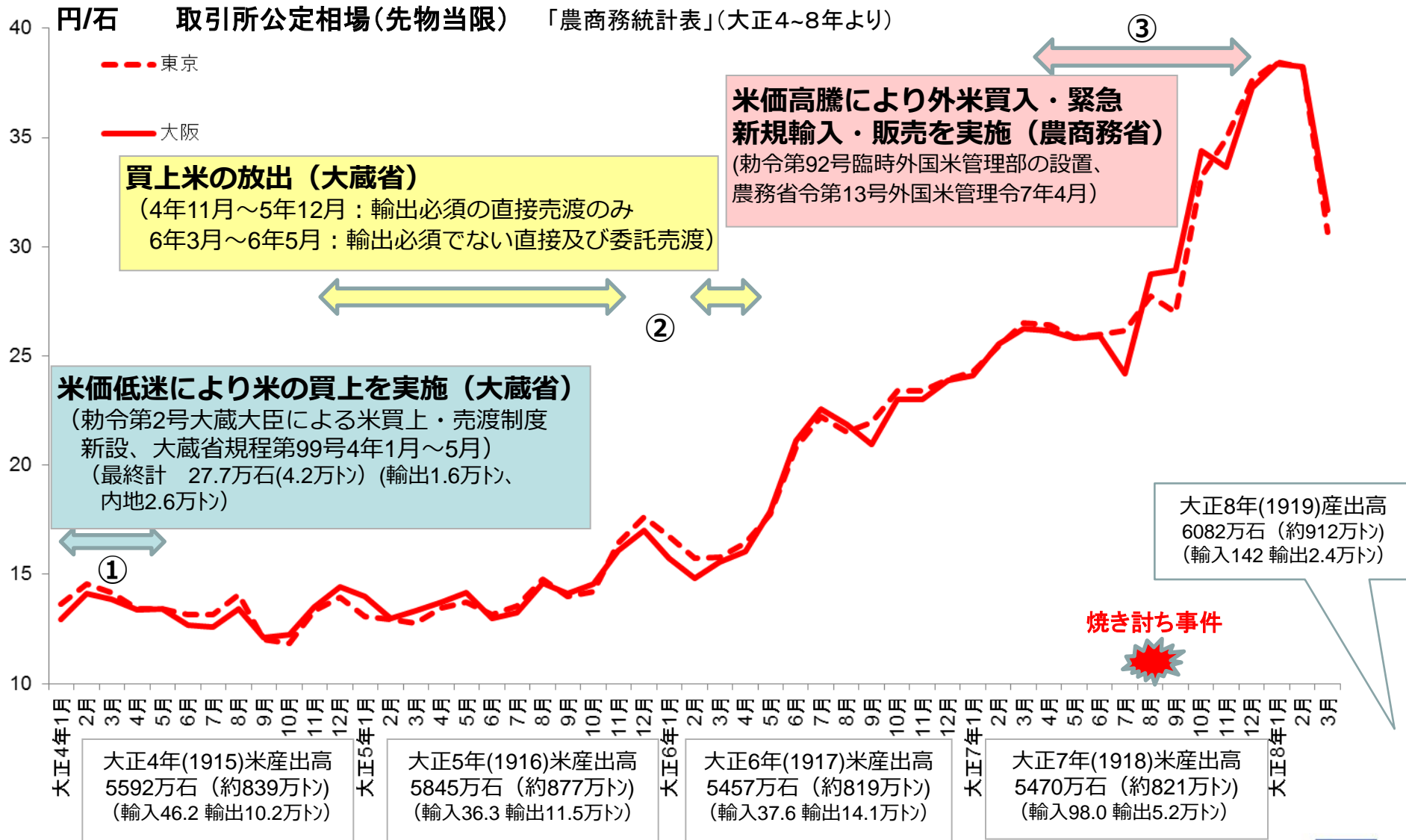


「米価問題と鈴木商店」の記載内容自体を官公庁等の記録と照合した先行研究は無い



大蔵省と農商務省の当時の施策に関する記録資料を調査したところ、「米価問題と鈴木商店」の記載内容と照合できるものが見つかった。今回、その照合を試みたので報告するもの

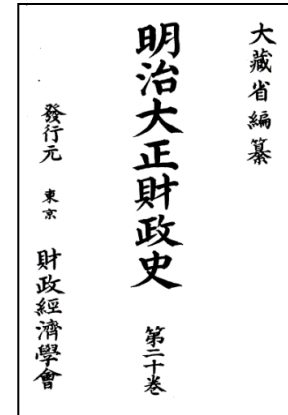
# 当時の政府の米価調整策



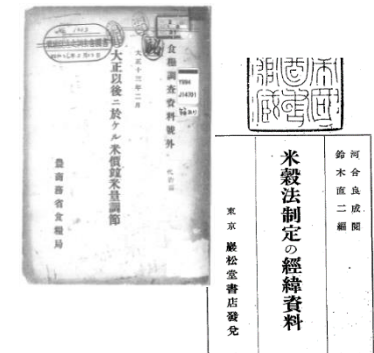
# 「米価問題と鈴木商店」 目次 と 今回、参照した公官庁資料

緒言	(本書発行の背景・動機)
第1章 日本米輸出の顛末	(1) 大隈内閣時代の調整米買上
	<b>(2) 調整米輸出</b>
	(3) サンフランシスコ玄米輸出に伴いたる風説
	(4) ウラジオストック輸出
	(5) マルセイユ輸出
第2章 外米取扱の顛末	(1) 管理令施行前の取扱
	<b>(2) 管理令施行の取扱</b>
	(3) 新規買入
	(4) 外米の配給
第3章 朝鮮米取扱始末	(農商務省に進言し、実施した買付・販売)
結論	(まとめ)

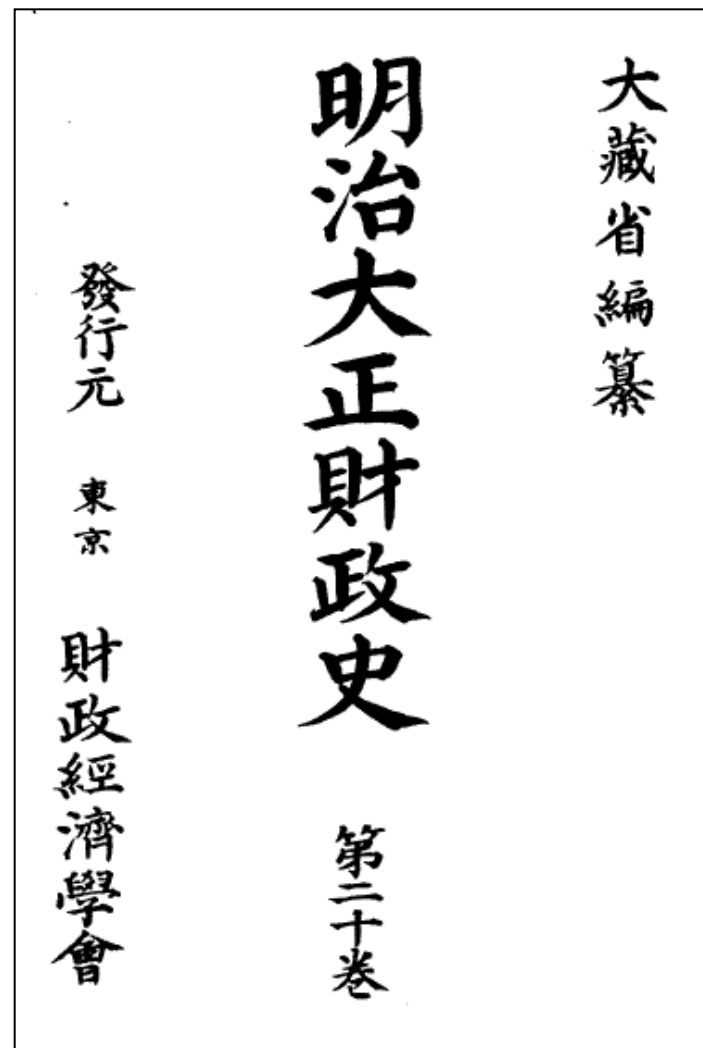
## 大蔵省資料 「明治大正財政史」



## 農商務省資料 「大正以後に於ける米価並米量調節」 「米穀法制定の経緯資料」



タイトル	明治大正財政史
著者	大蔵省
発行年	昭和15年(1940)
構成	全20巻、21000ページ
蔵書	国立国会図書館(インターネット公開済)
内容	明治36年以降大正末年までの同省作成資料を13年の歳月をかけて同省(編纂委員会)が編纂・発行したもの。第20巻に勅令第2号による米買上、売渡等に関する明細



# 大蔵省資料との照合 (1)

「明治大正財政史」 第20巻 昭和15年(1940) 著者 大蔵省 p327~p329

## 大正5年及び大正6年 政府による買上米の売渡明細

貯蔵地	賣渡年月日	区分	米賣渡一覽表	賣渡	賣渡高に對する買入代價に對する差額(△)	賣渡先	輸出地名又は内地消費地	東京															
								小計	大正五年(一、二、三)	大正六年(四、五、六)	大正七年(七、八、九)	大正八年(一〇、一一、一二)	大正九年(一三、一四、一五)	大正十年(一六、一七、一八)	大正十一年(一九、二〇、二一)	大正十二年(二二、二三、二四)	大正十三年(二五、二六、二七)	大正十四年(二八、二九、三〇)	大正十五年(三一、三二、三三)				
内海	昭和五年一月二十九日	小計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

貯蔵地

売渡契約日もしくは  
売渡命令日

区分 (生産年)

売渡俵数

売渡石数

売渡単価  
(売約日正米相場)

売渡額

買入額

差額

売渡先

輸出国名又は内地消費

(備考) 一、賣渡年月日は賣渡契約の確定日又は賣渡執行命令の日なり。  
二、俵数欄に括弧以下の数字あるは石と單位として賣渡したるを以てなり。

# 大蔵省資料との照合 (2)

「明治大正財政史」第20巻 昭和15年(1940) 著者 大蔵省 p327~p329

## 「米価問題と鈴木商店」

### 第1章 日本米輸出の顛末

#### (2) 調節米輸出

茲に於てか我鈴木商店は政府の米価調節の主旨を体し、社会の要求に聴き曩に政府の買上げたる米の内、**A大正5年6月大阪並に兵庫に於ける在米4万6030石を建値11円80銭**にて引受けたるを始めとし、B大正6年5月11万俵を建値15円11銭にて政府より買受けしを終わりとし、其間政府の主旨を体し順次中国九州地方にて玄米を買集め岡山精米所、大里精米所に於て71万俵を精白し主として英国仏国並に革命前の露国政府に供給したる外、玄米の儘マルセイユ、サンフランシスコ等へ輸出したるもの約15万俵に及べり。



大 蔵 省						貯蔵地
...	...	...	<b>a</b>	...	...	売渡契約日もしくは 売渡命令日
...	...	...	...	...	...	売渡俵数
...	...	...	...	...	...	売渡石数
...	...	...	...	...	...	売渡単価 (売約日正米相場)
...	...	...	...	...	...	売渡先

**a** “大正5年6月9日付 神戸及び大阪 44,675石、11円80銭にて合名会社鈴木商店に売渡” とある

※ 数量の差は減耗等による最終重量との差異と思われる

「明治大正財政史」第20巻 昭和15年(1940) 著者 大蔵省 p327~p329

## 「米価問題と鈴木商店」

### 第1章 日本米輸出の顛末

#### (2) 調節米輸出

茲に於てか我鈴木商店は政府の米価調節の主旨を体し、社会の要求に聴き曩に政府の買上げたる米の内、**A大正5年6月大阪並に兵庫に於ける在米4万6030石を建値11円80銭にて引受けたるを始めとし、B大正6年5月11万俵を建値15円11銭にて政府より買受けしを終わりとし、其間政府の主旨を体し順次中国九州地方にて玄米を買集め岡山精米所、大里精米所に於て71万俵を精白し主として英国仏国並に革命前の露国政府に供給したる外、玄米の儘マルセイユ、サンフランシスコ等へ輸出したるもの約15万俵に及べり。**



品名	数量	単価	建値	備考	貯蔵地
大正6年5月14日付 神戸及大阪	63,772俵	15円11銭	963,772円	鈴木商店に売渡	売渡契約日もしくは売渡命令日
大正6年5月3日付 横浜	78,492俵	15円11銭	1,187,492円	委託分として、渋澤商店委託・加藤由太郎(仲次人)に売渡	売渡依数
大正6年5月3日付 横浜	78,492俵	15円11銭	1,187,492円	委託分として、渋澤商店委託・加藤由太郎(仲次人)に売渡	売渡石数
大正6年5月3日付 横浜	78,492俵	15円11銭	1,187,492円	委託分として、渋澤商店委託・加藤由太郎(仲次人)に売渡	売渡単価 (売約日正米相場)
大正6年5月3日付 横浜	78,492俵	15円11銭	1,187,492円	委託分として、渋澤商店委託・加藤由太郎(仲次人)に売渡	売渡先

**b-1** “大正6年5月14日付 神戸及大阪 63,772俵、15円11銭にて鈴木商店に売渡”

**b-2** “大正6年5月3日付 横浜78,492俵、委託分として15円11銭にて、渋澤商店委託・加藤由太郎(仲次人)に売渡” とある。このロット**b-2**から約5万俵を買受け、合計11万俵と記載したものと推測される

※ 委託分については仲次人を媒介する市場の慣例に準拠したとある(加藤は深川市場の有力米問屋)。また価格には手数料を含まないものと思われる。



# 大蔵省資料との照合 (3) - 2

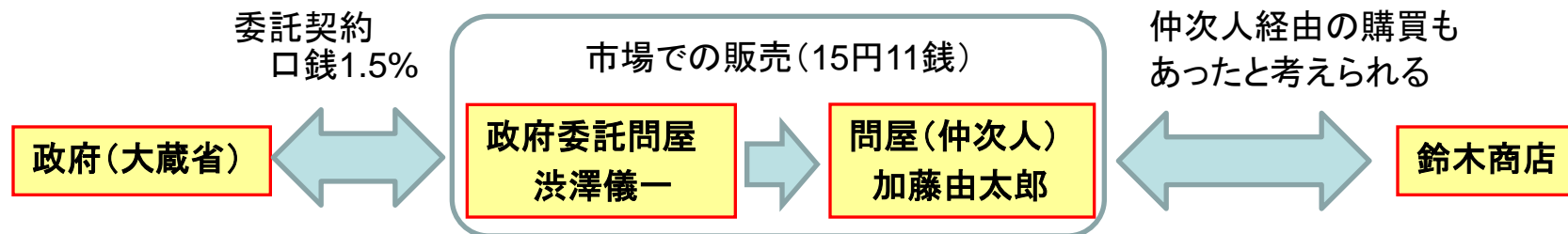
**b-1** “大正6年5月14日付 神戸及大阪 63,772俵、15円11銭にて鈴木商店に売渡 ”

**b-2** “大正6年5月3日付 横浜78,492俵、委託分として15円11銭にて、渋澤商店委託・加藤由太郎(仲次人)に売渡” とある。このロット**b-2**から約5万俵を買受け、合計11万俵と記載したものと推測される

## 上記推測の理由

- (1) 価格は契約確定日の東京正米相場が基準。本大蔵省資料記載の全ロット中、15円11銭のものは上記の2ロットのみ
- (2) 「米価問題」の大正5年の記載(A)には“大阪並に兵庫”と記載があるのに対し、大正6年の記載(B)には場所の記載がなく、複数の貯蔵地を合算した可能性は否定できない
- (3) 大正5年12月の米価上昇(一時的)により、大蔵省は渋澤商店を唯一の内地市場委託業者として、買上米の内地市場へも売出を決めた(輸出しても可)。ただし、秘密保持の為、市場の慣例(仲次人制度)に従う必要があった(下記※参照)。当時、71万俵を輸出していた鈴木商店は市場の慣例に従い、仲次人を經由して購買したことは充分考えられる

## ロットb-2から約5万俵を買受けた際の商流 (推測)



※ 「明治大正財政史」 第20巻 昭和15年(1940)より

p302 (中略)即ち東京深川市場の慣例に依れば、米を買はんとする者は通例問屋に委託し、委託問屋は市場に於て問屋より受託米の買付を為すものにして、此の買付に際しては仲次人を經由するを通例とせり。

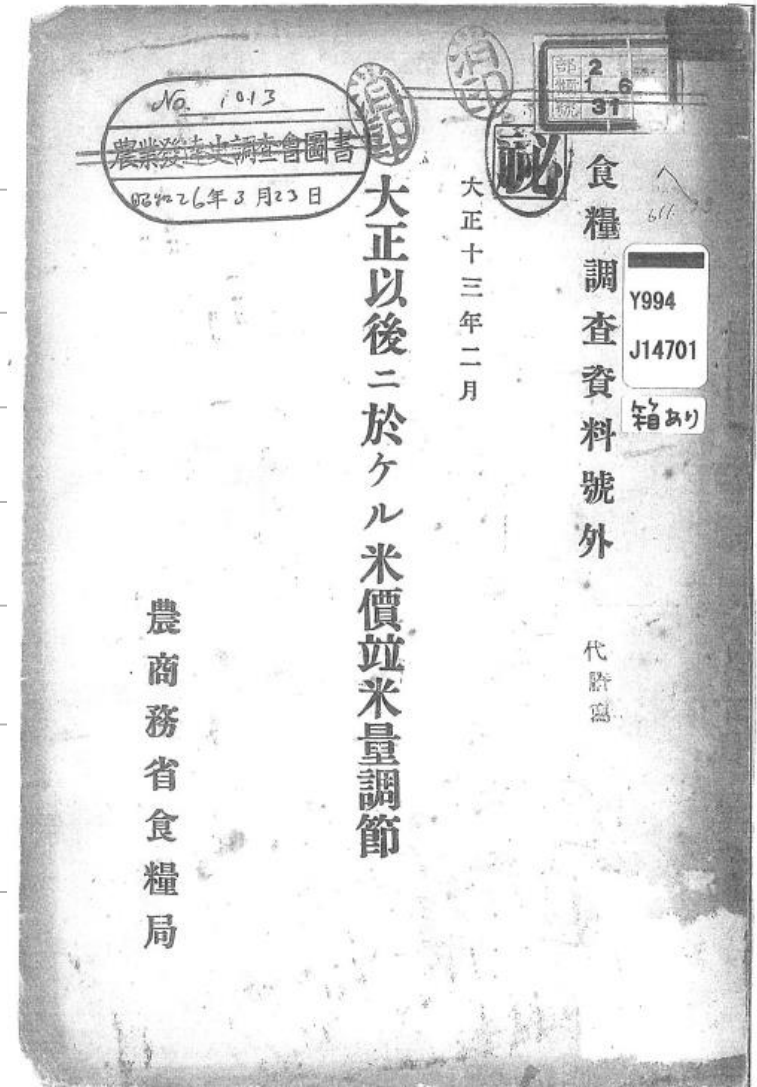
P322 (中略)右の売渡に際しても努めて市場の慣例を重んじ、且秘密の確保と手続きの迅速とに最も注意を払いたり。

p323 委託売渡に関しては買入・交換と同じく渋澤儀一商店に之を委託することと為し、大正5年12月13日付秘第2470号を以て左記(下)の如く命令書を交付したり。(中略)

7. 政府は売払米代金の決算の上、諸代金の千分の十五(1.5%)を手数料として非委託者に 交付すべし

8. 非委託者は堅く秘密を守るは勿論、専心忠実に事に従ひ直接間接を問はず自己の計算を以てする米の売買を営むべからず

タイトル	大正以後に於ける米価並米量調節
著者	農商務省食糧局
発行年	大正13年2月(1924)
構成	141ページ
蔵書	国立国会図書館(インターネット未公開)
内容	大正2年以降、政府が採った内地米の買入、外米管理、朝鮮米等の受渡し、といった米価調節の詳細をまとめたもの。



## 「米価問題と鈴木商店」

大正8年(1919) 著者 鈴木商店米部

### 第2章 外米取扱の顛末

#### (2) 管理令施行の取扱

勅令第92号を以て外米管理の事行われ

サイゴン米 神戸門司 倉渡百斤 7円50銭

ラングーン米 同 同 7円70銭

を以て指定売渡値段と定めらるるや一般市場の手持者は大打撃を蒙る事となりたるにつき、特に5月17日を限り一般市場の手持を

サイゴン米 神戸門司 沖 ② 8円20銭

ラングーン米 同 同 8円40銭

の値段を以て指定商人の手を経て政府へ買上ぐる事に決定せられ、①当店亦指定商人として左(下)の通り買上の手続を了せり。

ラングーン白米 4566袋

サイゴン白米 6万2705袋

サイゴン玄米 5222袋

計 7万2493 袋

## 「大正以後に於ける米価並米量調節」

大正13年(1924) 著者 農商務省

### p75 (外国米の買入)

(中略)..右の結論に基き(大正7年)5月7日、三井物産株式会社、**合名会社鈴木商店**、合名会社湯浅商店及び株式会社岩井商店を指定商と定め、左記事項を命令したり。(中略)..

### P78 (在庫品及既約品の買入)

(中略)..本年(大正7年)4月下旬における外米の在庫数量訳30万及既約品にして未だ内地に到着せざるもの約百万石ありたるを以て、まず右130万石を政府の手に収むることとし5月14日指定商と覚書を交換して**サイゴン2等白米神戸沖着8円20銭**の割合にて買入ることに決定してこれを実行せしめたり。(中略)..

①

②

## 「米価問題と鈴木商店」

大正8年(1919) 著者 鈴木商店米部

### 第3章 朝鮮米取扱始末

(中略).. 5月初旬、策を建て外米管理部に進言する所ありしに超えて①6月政府より約20万石を極めて秘密に買付くべき旨の命令ありたり。

(中略).. 茲に於てか到底鈴木商店の名義を以ては低価に買附をなす事の困難なるを感じ当局者の同意を得て①大阪市小西辰次郎氏に委するに鮮米買付の事を以てせり。

(中略).. 若し夫れ此の①朝鮮米12万石が米価奔騰天井知らずの概ありし8月初旬に東京大阪に存在せざりしならんには東京大阪の両市は殆ど飢饉に近き惨状を呈したるならん。

(中略).. ②朝鮮米の売出価格は政府之を指定す(1石37円となしたるは一般商人の朝鮮米移入を促進し且(かつ)朝鮮米の市場に影響を及ぼす事なからしめんが為なり)

## 「大正以後に於ける米価並米量調節」

大正13年(1924) 著者 農商務省

### p85 (朝鮮米買入)

(中略).. 大正7年6月指定商社合名会社鈴木商店に対し..(中略).. 朝鮮米20万石以内の移入販売を命じたり。同商店は大阪市鮮米商小西辰次郎を介して釜山.... に於いて.... 約11万8500余石を買付けたり。

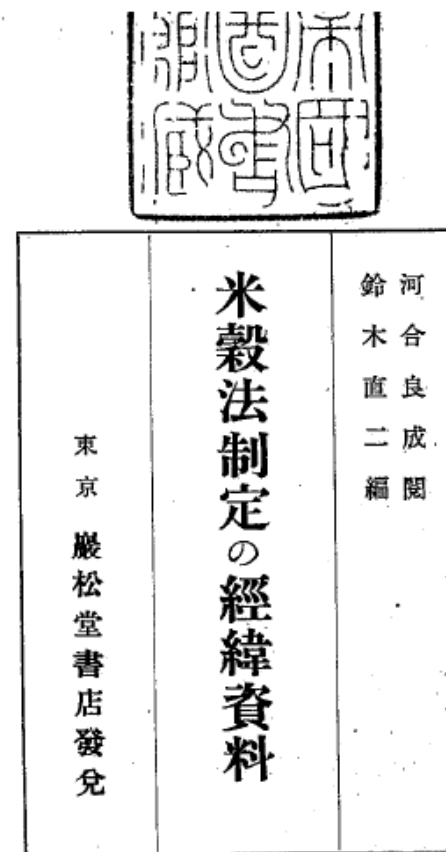
①

### P85 (台鮮米の売渡)

(中略).. 8月5日より東京大阪に於て白米1石37円にて毎月約5千袋までの売出を行い、.. (中略)..

②

タイトル	米穀法制定の経緯資料
著者	鈴木直二
発行年	昭和13年7月(1938)
構成	335ページ
蔵書	国立国会図書館(インターネット未公開)
内容	大正2年から大正10年の米穀法制定に至る迄の経緯を説明したもの。当時、農商務省、外米管理部業務課長として最前線にて政府の米価調節策にあたった河合良成氏の所蔵資料をまとめたもの。



## 「米穀法制定の経緯資料」

昭和13年7月(1938) 著者 鈴木直二

### 第二 外米管理 (二)外国米専売に関する件 P281~282

臨時外米部長 片山勝代 談

「指定商社鈴木商店が神戸に於て不幸に遭遇するに至りたるは実に遺憾に堪えざる所なり。各指定商は外米管理に付ては誠心、誠意政府の意を体し、利害を離れて尽瘁今日に及び、而かも鈴木商店の如きは三井物産と同じく自己の持船を有するが故に、他に利用するに因りて生ずべき利益を犠牲として、米の為に船繰を為し呉れたる事績少からず。朝鮮米に付ても亦、寸分自己の利益を計らざりしことは当初より一貫し来れり。然るに昨夜(大正7年8月12日)の如き事態に遭遇せしめたるは此上なき遺憾なり。加うるに書類の焼尽したるもの少なからざるべく、殊に外米に関する帳簿及注文等の書類焼失したるときは外米管理の運転上、至大の不便を生ずるは勿論、各地よりの多数の注文者に対し外国米の配給を為すの手段なきに至るべく、即ち米価の低落を図る手續上に至大の支障を醸したることとなり、実に遺憾に堪えず。米価の低落を希望する向なくは却て外米管理に故障を生ずるが如きことなからしむること社会一般に注意を望み居る位なるに、急旅行を要するが故に汽車を遅れしとして鉄道路線を破壊すると云うに類することあるに至りたるは実に深憾に堪えざる所なり。

結果： 公官庁記録と明らかに異なる記載は「米価問題」には認められなかった。  
今回の調査で確認できた点は下記の通り

緒言	(本書発行の背景・動機)
第1章 日本米輸出の顛末	(1)大隈内閣時代の調整米買上
	<b>(2)調整米輸出</b>
	(3)サンフランシスコ玄米輸出に伴いたる風説
	(4)ウラジオストク輸出
	(5)マルセイユ輸出
第2章 外米取扱の顛末	(1)管理令施行前の取扱
	<b>(2)管理令施行の取扱</b>
	(3)新規買入
	(4)外米の配給
第3章 朝鮮米取扱始末	(農商務省に進言し、実施した買付・販売)
結論	(まとめ)

大蔵省資料  
「明治大正財政史」

大正5年及び6年の調整米輸出に関する記載に明らかな不一致はない事を確認(一部推測を含む)

農商務省資料  
「大正以後に於ける米価並米量調節」  
「米穀法制定の経緯資料」

大正7年外国米管理令施行後に関する記載及び朝鮮米の買付・販売についての記載は合致すること、また農商務省からは、政府の米価政策に多大な貢献を行い、評価されていたことを確認

# 追加資料 「米騒動の研究」 はなぜ「米価問題」を無視したのか (1) 怨嗟の的になった原因 “ 誤報の存在 ”

## 怨嗟の的になった原因

(①「史上最大の仕事師 鈴木商店の大番頭金子直吉のすべて」PHP研究所 澤野恵之 昭和58年(1983)P147より、  
②③④「総合商社の源流 鈴木商店」日本経済新聞社 桂芳男 昭和52年(1977)P112,115,127より要約)

- ① 大戦景気に浴さない一般大衆の「成金」への嫉妬
- ② 大戦時の買出動(大正3年)で儲けた鈴木商店は当然米も買占めているはずという憶測
- ③ 「大阪朝日新聞」が誹謗中傷ともとれる記事を掲載し続け(※)、反鈴木の世界論をリードしたこと
- ④ 逆宣伝の欠如 (「やましい事は何一つない」、「正しい事はいまに判る」の信念に基き、世の誤解を解くための努力を一切しなかった)

※寺内内閣を組閣当初から非立憲内閣として批判。当時、臨時総理格の後藤新平(外相)が作らせたといわれる新時代(雑誌社)との非難合戦があり、鈴木はそのスポンサーであると大阪朝日は見ていた

## 「大阪朝日新聞」の輸出に関する誤報記事の例 (米価問題と鈴木問題 p5、p8~9から要約)

大正6年5月 米国西海岸向けへの輸出を鈴木商店がドイツ(当時の敵国)向け米輸出を為しつつあるとの記事を掲載(誤報)

大正6年7月 フランス向け玄米輸出の際、鈴木商店は大規模に買占めをなしつつあるとの記事を掲載 (誤報)

## 「大阪朝日新聞」の誤報・中傷記事の例 (鼠から抜粋、大正7年の記事)

7月23日 「鈴木商店は他人名義で.....買占めを行い、為に市場を攪乱し、正米相場をして遂に32円の暴値を現す地方を生ぜしむ....」(憶測)

8月2日 “いよいよ朝鮮米の売り出し 公設市場と「心得ぬ」鈴木商店”(大見出し)(事務連絡の遅れを非難)

8月9日 “鈴木商店の弁明 鮮米売上の怪説に対して利益は政府に収める”(大見出し)「一石につき約1円の手数料を取った上に」→(これは37銭の誤報)

8月11日 “責任は鈴木商店 遂に一合も買えずに帰る 炎天下に立ち尽くした群衆の不平”(大見出し)(手配ミスへの非難)



# 追加資料 「米騒動の研究」 はなぜ「米価問題」を無視したのか (2)

## 「鼠」の指摘 噂の部分は引用

昭和34年 (1959)  
「米騒動の研究」  
井上清 他

(第3巻p19 中略) そしてその事業の一部に米仲買があったのであるが、すでに大隈内閣の米価釣り上げ政策の一端として行った買上げ米(第一巻、四頁以下参照)の払下げを受け、さらに自ら買集めたものを合わせて①七十万俵を国外に輸出している(鈴木商店「米価問題と鈴木商店」)。この輸出でも同商店は「満足すべき成績」をおさめたが、そのさい、集積した米すべてを輸出したのではなく、かえって②買占めを続行しているのではないかと疑われ、鈴木が米を買占めて値を釣り上げているという噂は世上に喧しかった(「新史流」、p44)。事実すでに第四〇議会で(18年2月29日)、③憲政会の横山勝太郎により、鈴木商店は5千万円の資本を投じて精粉類と小麦の買占をやっていると暴露されているのである。その上、④外米管理令による指定商人として、外米・朝鮮米を取扱って莫大な利益をあげていた。このため、鈴木商店は市民の怨嗟の的となっていた。

昭和41年 (1966)  
「鼠」  
城山三郎

(新装版p14~34より抜粋)

①鈴木商店は前年の大正6年7月以降一切輸出はしていない点を「米価問題と鈴木商店」で強調しているにもかかわらず無視している。→ 事実誤認

②噂の部分は別論文の「新史流」を引用しているが、証言者を再度取材し、証言内容が正確に記載されていないこと、都合よく解釈されていることを明らかにした。(※ 次ページ参照)

③明らかに米と小麦のすり替えがある。  
(前年、英国政府から小麦10万トンを受注をした際、受注の事実を知らない会社が相場での空売りにより、大損失を出した事実はある)

④「米価問題と鈴木商店」で口銭は政府との取り決められている点も強調しているが、無視している。→ 事実誤認・拡大解釈

# 追加資料「米騒動の研究」はなぜ「米価問題」を無視したのか (3) 「新史流」の概要 (「米騒動の研究」が引用した文献)

雑誌名	新史流 創刊号 (法政大学社会学部学生 計18名が分担して記述。教授、助教授、助手の報告はなし)
鈴木商店部分	伊奈大礼 (『神戸を中心とした社会情勢』 - 米穀取引と鈴木商店 - p35~49、15ページ)
発行年	昭和29年(1954)
構成	計 141ページ
記載内容	神戸市を中心とした騒乱内容、手記、場所、時刻、公判記録、物価推移 等
現地調査(神戸市)	昭和29年(1954) 7月24日から10日間、18名による聞取調査
使用した資料	①上記の独自の聞取調査結果 +②細川資料 (② 増島宏「米騒動研究の成果と課題」(1968) p26より)



## 「(物証に代わる)証言の偽証性」を指摘

### 「新史流」(p43~44に証言として記載)

証言1 「米は鈴木商店が買占めていた。青田買いまでしている。鈴木が廉売したという記憶がない」(高木行松氏)



城山氏の同氏への再聞き聞き取り調査結果(「鼠」 新装p22)  
買占めの根拠は「そういう噂があったから」。青田買いの根拠は「新聞記事(大阪朝日)にそう書いてあったから」であることが判明

証言2 「鈴木よねと金子を除いて米騒動は考えられぬ。米価高騰の最中、鈴木は小売商店まで買占めに来た。騰貴は鈴木 of 買い占めと期米の買占めをした石井貞一(仲買人)が張本人だ。」(上田歳樹氏)



(「鼠」 新装版p26)  
実際は「米は買い漁りはしていない」との回答だった。小麦の買漁りについては「鈴木らしいとの噂」が根拠

証言3 「鈴木商店の買占めは事実であり、一貫して買いに廻っていた。」(天野又蔵氏)



(「鼠」 新装版p33)  
買占めの根拠は「そういう噂があったから」であることが判明。(社会人1年目でそもそもよく解っていないのでコメントは断っていた)

# 追加資料 「米騒動の研究」 はなぜ「米価問題」を無視したのか (6) 城山の記述と桂の追認

城山三郎 「鼠」 (文芸春秋 昭和41年(1966)、(新装版 p34より)

「直接作業に携わったのは、学生かもしれぬ。それが、『米騒動の研究』といういわば決定版の中にするすると織り込まれて行ったことについて、私は不安を感じる。権威ある城郭も砂上のものとなり、そして、砂上にあることを人は知らない。『米騒動の研究』一書に権威を見るのはおかしいといわれるかも知れぬが、塩谷の高校一年生に「うちの鈴木商店って、米の買占めやって、ひどう、うらまれたんだってね」と言わせたものを遡っていけばこの城郭に突き当たるのだ。」

※ 塩谷の高校1年生 : 鈴木岩蔵未亡人の孫。

桂 芳男 「総合商社の源流 鈴木商店」(日本経済新聞社、昭和53年(1978)、p98 より)

「(中略)そこで、彼(城山氏)は作家の眼と経済学者(元愛知学芸大学教官)杉浦栄一(本名)の目を通して、鈴木焼き打ち事件の「真実」を追うのである。そして、前記『米騒動の研究』における「事実誤認」「拡大解釈」「(物証に代わる)証言の偽証性」、総じて学術書としての致命傷「牽強附会」をあげるのである。城山は、この作品『鼠』によって、神戸の米騒動問題で永年にわたり不当な扱いをうけてきた鈴木商店の名誉を回復するのに成功したといつてよい。」

※ 鈴木商店研究の第一人者。昭和47年の日本経営史学会にて共通論題である「総合商社の発展」において鈴木商店を担当したことを契機に鈴木商店研究を開始。鈴木商店に関する著書、論文多数。

### 米騒動の研究(第3巻p19を引用)

(中略)そしてその事業の一部に米仲買があったのであるが、すでに大隈内閣の米価釣り上げ政策の一端として行った買上げ米(第一巻、四頁以下参照)の払下げを受け、さらに自ら買集めたものを合わせて七一万俵を国外に輸出している(鈴木商店「米価問題と鈴木商店」)。この輸出でも同商店は「満足すべき成績」をおさめたが、そのさい、集積した米すべてを輸出したのではなく、かえって買占めを続行しているのではないかと疑われ、鈴木が米を買占めて値を釣り上げているという噂は世上に喧しかった(「[新史流](#)」、p44)。事実すでに第四〇議会で(18年2月29日)、憲政会の横山勝太郎により、鈴木商店は5千万円の資本を投じて精粉類と小麦の買占をやっていると暴露されているのである。その上、外米管理令による指定商人として、外米・朝鮮米を取扱って莫大な利益をあげていた。このため、鈴木商店は市民の怨嗟の的となっていた。



### こう書けたはず

(中略)そしてその事業の一部に米仲買があったのであるが、すでに大隈内閣の米価釣り上げ政策の一端として行った買上げ米(第一巻、四頁以下参照)の払下げを受け、さらに自ら買集めたものを合わせて七一万俵を国外に輸出している(鈴木商店「米価問題と鈴木商店」)。この輸出は前年の政府の米価調整策に協力したものだが、そのさい、集積した米すべてを輸出したのではなく、かえって買占めを続行しているのではないかと疑われ、鈴木が米を買占めて値を釣り上げているという噂は世上に喧しかった(「[大阪朝日](#)」〇年〇月〇日)。事実すでに第四〇議会で(18年2月29日)、憲政会の横山勝太郎により、鈴木商店は5千万円の資本を投じて精粉類と小麦の買占をやっていると暴露され、その上、外米管理令による指定商人として、外米・朝鮮米を取扱って莫大な利益をあげていたとの憶測があった。このため、鈴木商店は市民の怨嗟の的となっていた。

# 追加資料「米騒動の研究」はなぜ「米価問題」を無視したのか (8)

## 「米騒動の研究」の概要

編者	井上清（当時助教授）、渡部徹（京都大学人文科学研究所）
兵庫県(第3巻) 執筆担当	松尾尊兌(たかよし)（当時助手）（計7名が研究参加者）
発行年	昭和34～37年(1959～1962)
助成金	昭和30年度文部省科学研究費交付金、昭和33年度文部省研究成果刊行助成金
構成	全5巻(第1巻は全国的概要、第2～4は各府県別、第5巻は構造、取締と鎮圧、等) (合計 2408ページ)
記載内容	全国の市町村別の騒乱内容、場所、時刻、検挙者詳細、公判記録、物価推移、賃金推移 等
使用した資料	細川嘉六氏が収蔵してきた資料(新聞記事、雑誌の論文、関係者の手記、役所保管資料等) (「細川資料」といわれる。合計で250字詰め原稿用紙で6万枚以上)
引用文献	神戸市(鈴木商店所在地)については新史流創刊号、昭和29(1954)を引用している

# 追加資料「米騒動の研究」はなぜ「米価問題」を無視したのか (9)

## 細川嘉六氏の経歴と細川資料

経歴はウィキペディアから抜粋

資料履歴は増島宏「米騒動研究の成果と課題」p17~48, 『米騒動五十年』労働旬報社(昭和43年(1968)) から要約

- |              |  |
|--------------|--|
| 明治21年(1888)  | 富山県下白川郡泊町(現 朝日町) 生まれ   |
| 大正6年(1917)   | 東京帝国大学法学部政治学科卒   |
| 大正8年(1919)   | 東京帝国大学法学部助手  |
|              | その後、大原社会問題研究所(後の法政大学歴史学研究会)入所  |
| 大正13年(1926)  | モスクワで片山潜(コンテルン常任執行委員会幹部)と面会。その指示により、米騒動の研究に必要な資料収集を研究所あげて開始  |
| 昭和5年(1930)ごろ | 米騒動に関する資料(新聞報道、社説、雑誌上の論文、公判記録等)がまとめ(これが細川資料といわれる)3部を作成。うち1部はモスクワの片山氏に送付<br>片山氏は1931年「第一次世界大戦後における日本革命運動の批判的総観」を発表  |
| 昭和8年(1933)   | 治安維持法違反容疑で逮捕<br><u>(1933~終戦) 細川資料の収集・整理は終戦まで凍結</u>   |
| 昭和16年(1941)  | ゾルゲ事件に絡み逮捕<br><u>(戦後 法政大学歴史学研究会で細川資料の整理、編集開始)</u>  |
| 昭和22年(1947)  | 日本共産党公認で第1回参議院選挙に出馬し、当選  |
| 昭和25年(1950)  | 第2回参議院選挙に当選  |
| 昭和26年(1951)  | 占領政策に反したとして逮捕、公職追放<br><u>(1954年 法政大学歴史学研究会 新史流(創刊号) を発表)</u><br><u>(1954年 細川資料は京都大学人文科学研究所で本格的な整理、編集が開始される )</u><br><u>(1959年 井上、渡部、松尾ら「米騒動の研究」 第1巻発表)</u> |



# 追加資料 「米騒動の研究」はなぜ「米価問題」を無視したのか (10)

## “ 誤報の存在が容認できないから ”

